

文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究
「ソフトインターフェースの分子科学」

第三回 領域会議

第二回公開シンポジウム報告 菊池 明彦*



文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「ソフトインターフェースの分子科学」(ソフト界面)の第三回領域会議、ならびに第二回公開シンポジウムが、去る2009年9月28日(月)～29日(火)の両日にわたり独立行政法人理化学研究所内の鈴木梅太郎ホールで開催されました。第二回領域会議までは、計画班の研究者のみで行われてきましたが、第三回の今回は、新たに公募で参画した計24名の研究者との顔合わせを主眼として、公募研究者の研究計画を短時間で説明していただくとともに、ポスターセッションにおいて、計画研究・公募研究の研究内容の発表が行われました。本領域での取り組み「A01:ソフト界面の創成」、「A02:ソフト界面の解析」、「A03:ソフト界面の機能」の各分野に関しさまざまな研究が公募研究者から提案され、ポスターセッションでも多くの研究者の間で活発な議論が行われました。

第2日は、公開シンポジウムが開催され、計画研究から4題の研究発表と、2件の特別講演が行われました。特別講演は、理化学研究所主任研究員の田原太平博士より「新しい非線形分光で観るソフトな界面の分子科学」という演題で、また、東京女子医科大学の岡野光夫教授より「細胞シート工学：再生医療におけるソフトなナノ表面構造の重要性」という演題でそれぞれご講演いただきました。田原先生の講演では、田原先生のグループで開発された液体界面に存在する分子の電子スペクトルを高精度で測定できるマルチプレックス電子和周波発生分光法について、界面分子の測定例とともに話をされました。また岡野先生の講演では、岡野先生がこれまで研究されてきたソフト界面に関する研究の流れをまとめて講演いただくとともに、現在精力的に展開されている細胞シート工学を利用した再生医療の発展までご講演いただきました。いずれのご講演も、今後私たちの新学術領域研究を推進する上で、参考になるものと考えられます。計画班の研究発表の中では、すでにこれまでに実施された領域会議内でのディスカッションから始まった共同研究の例がいくつか紹介され、それぞれの研究の進展における共同研究の重要性が見いだされました。今回参画された24名の公募研究者も含め、領域内共同研究のさらなる推進が期待されます。

次回は、平成21年1月21日、22日の両日にわたり、つくば大学にて公開シンポジウムと領域会議が開催される予定です。また、来年3月には、日本化学会年会内で当領域の若手研究者を中心にしたシンポジウムが開催されること、また同12月にはPACIFICHEM 2010内でソフト界面のセッションが開かれることがアナウンスされました。



公開シンポジウムの挨拶をする
前田領域代表

*東京理科大学基礎工学部材料工学科 教授